

設備工事情報シート	その他	Ⅱ－S－4	制 定	2009年4月1日
			改 訂	2016年3月1日
Ⅱ．メーカー情報	貫通口施工位置の確認		日本ヒルティ編	

1. 目的および概要

貫通口を施工する際、リニューアル工事等の図面に頼ることが難しい現場では、煩雑な計測を繰り返したり、試し穴の施工など非常に手間がかかっていた。

トランスポインタ PX10は、トランスミッタから磁場を放射し、レシーバによって検知、状態表示シグナルの矢印を合わせることで裏側のポイントを示す。

また、同時にその2点間の距離（厚さ）を推定することができる。

貫通口施工位置の決定のほか、X線方式のコンクリート非破壊検査におけるフィルム位置決めにも有効である。

2. システムの内容・特徴



トランスポインタ PX10
左：PX10R レシーバ
右：PX10T トランスミッタ

技術データ

- 標準測定範囲 : 0.05m～1.35m（測定する壁・床の厚さ）
- 平均位置測定精度
 - ※標準：200mmにつき±8mm（1mまで）
 - ※最小：200mmにつき±2mm（1mまで、金属影響のない場合）
- 厚さ測定精度 : 壁や床厚の±5%
- 電池 : 9Vアルカリ電池 各1個
約17時間使用可能
- 寸法 : 160×95×33mm（PX10T トランスミッタ）
210×95×33mm（PX10R レシーバ）
- 重量（電池含む） : 240g（PX10T トランスミッタ）
275g（PX10R レシーバ）
- 耐候性（電池収納部分を除く） : 防塵防水構造（IP56）

使用方法

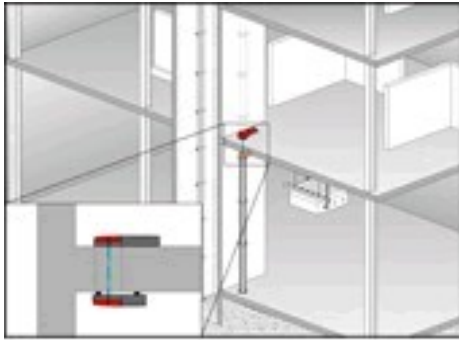
- PX10TトランスミッタおよびPX10Rレシーバの「ON/OFF」ボタンを押し、本体をオンにする。
- PX10Tトランスミッタを中央の穴または外側マーキングに合わせ、基準点に固定する。
（固定用として粘着パテ、両面テープが付属）
- レシーバーがトランスミッタの測定範囲内にある場合、状態表示シグナルが点灯する。
作業者は点灯した矢印方向にトランスミッタを移動させる。
センターが見つかり、4個の矢印が全て点灯する。
レシーバーの本体ヘッド部中央の穴または外側のマーキング用切込みを使いマーキングする。
- レシーバのインジケータがセンターで点灯する場合、トランスミッタとレシーバの距離は最低値と最高値で表示される。（絶対値ではない）
- 傾斜アダプターを使うことにより、角度のついた位置あわせや、2点間の角度の測定も可能。

注意事項

- レシーバーは常にトランスミッタと平行になるように配慮する。
- 壁の端部や隣接する鉄筋コンクリート壁のすぐ近くでは正確な測定が難しい（200mm程度ずらすことを推奨）
- 鋼製デッキを用いたスラブ構造での探査には使用できません。



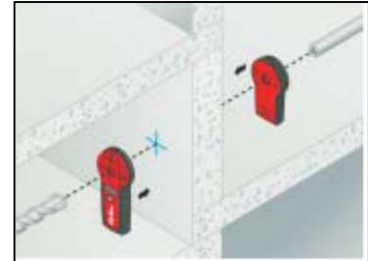
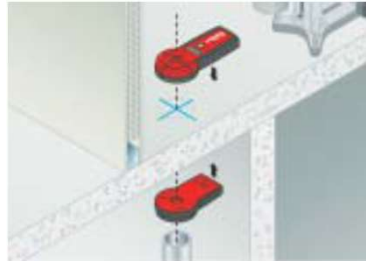
3. 用途ごとの使用方法



(1)貫通口施工位置の把握/出口位置から穿孔開始ポイントの位置決め

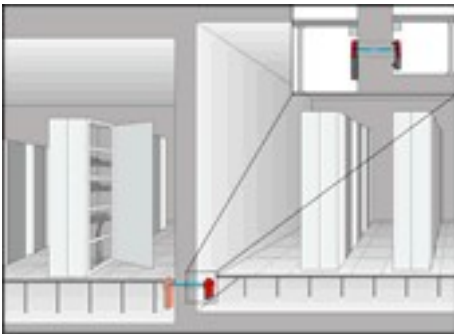
貫通口施工位置の把握。コンクリートやブロック造などの壁や床に貫通口を施工する際、ビットの出口位置をあらかじめ把握できます。

反対に出口位置から穿孔開始ポイントを決めることもできます。



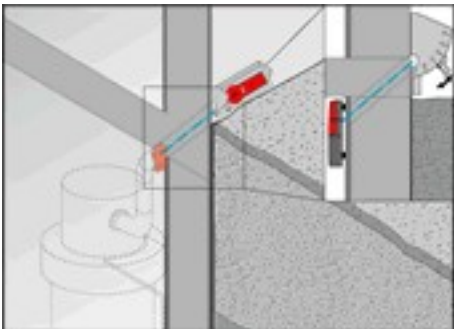
コンクリートスラブの下面の
ポイントを上面から探し当て

床の高さの違う部屋間での貫
通口の位置決め



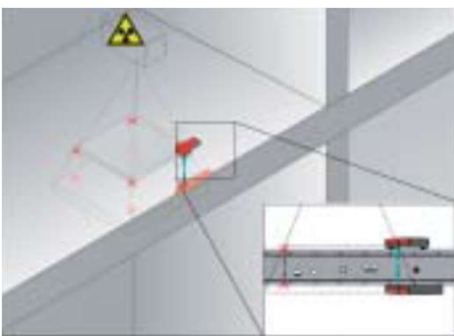
(2)壁や床厚の測定

壁や床厚の測定。貫通口施工に使うハンマードリル、ダイヤモンドコアツールのビット長さを確認できます。



(3)床の高さの違う部屋間での角度のある貫通口の位置決め

角度のある貫通口施工の穿孔開始ポイントと出口位置も、付属の傾斜アダプターで容易に把握することができます。



(4)X線方式のコンクリート非破壊検査時のフィルムの位置決め

4. 問い合わせ先

日本ヒルティ株式会社 カスタマーサービス

電話番号 フリーダイヤル 0120-66-1159 (平日 8:30~18:30)